

< >は変更予定数量(額)  
 裸数値は当初数量(額)  
 ( )は国庫補助含みの数量(額)

資料2-1

平成30年度「やまがた緑環境税」活用事業(ハード)取組みの考え方

(単位:千円)

区分	事業名	担当課	事業の概要	事業量等 (年間実績見込み)	H29当初予算額 ( )は国庫補助含みの額	平成30年度の事業取組みの考え方
I 環境保全を重視した 施策の展開	<b>① 環境保全を重視した森林整備の推進</b>					
	□ 荒廃森林緊急整備事業		長期に管理放置された森林を整備し、森林の公益的機能を確保	1,020 ha	< 494,153 > < (655,885) > 490,153 (651,885)	全体計画の達成に向けて、着実に森林整備を進めたい。
	□ 人工林整備			760 ha	250,080 (411,812)	
	スギ人工林の再生を起点とした環境に配慮した森林経営の展開(針葉樹林維持型)	林業振興課	○ 間伐及び森林作業道の設置など、森林組合等が森林所有者に代わって施業を一元管理し、森林の公益的機能を維持する仕組みを構築	750 ha	247,679 (407,760)	手入れが不十分で荒廃のおそれのある人工林について、間伐や森林作業道の開設などを行い、森林の公益的機能を持続的に発揮させたい。また、森林経営計画内の荒廃森林の間伐と森林作業道の開設を積極的に推進し、森林組合等による長期受託による健全な森林経営に繋げたい。
			・ やまがた緑環境税による整備	270 ha	172,347	
			・ 国庫補助事業を活用した整備(森林環境保全直接支援事業)	480 ha	75,332 (235,413)	
	水源かん養などの公益的機能の高い森林の整備(針広混交林型)	林業振興課	○ スギ人工林に広葉樹を導入するための強度の間伐や森林作業道の設置など	10 ha	2,401 (4,052)	水源かん養機能、土砂流出防止機能等の公益的機能の維持増進を重視して、森林整備を進めたい。
			・ やまがた緑環境税による整備	4 ha	1,621	
			・ 国庫補助事業を活用した整備(環境林整備事業)	6 ha	780 (2,431)	
	□ 里山林整備		○ 病虫害被害木の伐採、広葉樹の植栽など	260 ha	< 244,073 > 240,073	病虫害等被害で活力が低下した里山林の公益的機能の回復を目指すため、被害木の伐採や補植を行い再生を進めたい。
	病虫害等で荒廃した里山林の再生		・ 病虫害や風雪害等により、自然回復出来ない広葉樹林の整備	72 ha	< 214,068 > 213,068	
			・ ナラ枯れ2次被害対策	130 ha	(上記に含まれる)	
			・ 森林景観整備(市町村補助)	58 ha	27,005	
		(小計)		1,020 ha	< 494,153 > < ( 655,885) > 490,153 (651,885)	
	<b>② 資源の循環利用の促進</b>					
□ 森林資源の再生	林業振興課	再造林とその後の保育施業を、森林組合等が森林所有者に代わって一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築	110 ha	19,065	造林未済地の解消に向け、主伐後に再造林を行う仕組みを早急に構築し、森林保全と木材利用が両立された持続的な森林管理を推進するため、再造林の支援を拡大し実施したい。併せて、再造林の低コスト化に向けた実証事業を行いたい。	
□ 森林資源循環利用促進事業	林業振興課	間伐で発生する低質材を、合板等やペレット等のバイオマス燃料として利用するための搬出への支援	60,000 m3	36,490	県内の低質材の利用、木質燃料を推進するため、継続して行いたい。	
		① 合板・パルプ用	34,000 m3	13,600		
		② 木質燃料用	26,000 m3	22,890		
□ 広葉樹林健全化促進事業	林業振興課	ナラ枯れ被害木を含むナラ林の伐採によるチップ等への活用とナラ林の若返り、害虫の駆除を行うための搬出への支援	< 1,000 m3 > 5,000 m3	< 1,000 > 5,000	今後も、ナラ枯れ被害木を含むナラ林を伐採し、害虫の駆除と合わせてナラ林の若返りに取り組みたい。	
		・ 伐採搬出に関する助成	< 1,000 m3 > 5,000 m3	< 1,000 > 5,000		
	(小計)			< 56,555 > 60,555		
<b>I (ハード事業①+②)計</b>		<b>計</b>		<b>550,708</b> (712,440)		